

■令和7年度事業報告（事業の状況）■

公益目的事業	本県木材関連産業の振興を図る事業
--------	------------------

（１）情報収集提供事業

本県木材関連企業における製品開発や加工利用技術の向上に資するため、秋田県立大学木材高度加工研究所の試験研究成果、木材・木製品に関する法令や制度の制定・改正情報、各種研修会や講習会の開催案内、木材関連の新技术情報、当機構の業務紹介などについて、情報紙及びホームページにより適時広範な情報発信を行うとともに、広範囲での県内の木材加工製品の展示や県内の大学と企業の連携による取り組みの紹介などを行った。

１）情報紙の発行

情報紙「木材加工最前線」を出捐団体や賛助会員をはじめ、県内の林業・木材関連企業や行政機関、県内外の試験研究機関等へ配布した。

発行回数：３回（105～107号）／発行部数：各号580部

NO.	発行部数	発行日	主な内容
第105号	580部	R7.8.5	木材高度加工研究所から～木材基礎講座を開催 / 実践 オンサイト製炭：渡辺准教授 ほか 木材加工推進機構から～木造・木質化建築賞の作品募集 / あきた木造建築塾を開催 / 新代表理事の抱負 ほか
第106号	580部	R7.12.26	木材高度加工研究所から～秋田県 [※] による超小型電機自 動車「あきたもくまる」の開発 ほか 木材加工推進機構から～MOCTION 企画展 / 木材利用提 案コンクール、ウッドファーストあきた木造・木質化建築賞 ほか
第107号	580部	R8.3.31	木材高度加工研究所から～木材腐朽菌のリグノセルロ ース分解戦略：特任助教 元田多一 / 木材学会広島大会 での木高研関係者の発表テーマ ほか 木材加工推進機構から～モクコレ 2026 展へ秋田県ブ ース出展 / 秋田県原木需給会議 / 人事関連 ほか

２）ホームページの運用

当機構の業務紹介、各種研修会や講演会の開催案内、最新の木材製品情報、木材関連産業のトピックスなど各種情報をホームページに掲載し、広く情報の提供を行った。

◎ **更新回数：HP21回、FB17回／トップページへのアクセス数：8,734件**

３）あきた材ブランド発信事業（県受託事業）

秋田県の森林資源の成熟に伴って増加する大径材から生産される内装材に加え、主要構造材における県産材の利用拡大に向けて、効果的なプロモーションを実施するため、首都圏での展示会を開催。

① MOCTION

- ・会 場： 東京都新宿区西新宿 3-7-1 新宿パークタワー5F 「MOCTION」
- ・運営期間： 令和 7 年 10 月 23 日（木）～11 月 4 日（火）
- ・展示内容： **AKITA Wood Mania!**
～マニアックなほど素晴らしい秋田の木と仕事～
一般的な内装材等における「秋田杉」のイメージからさらに踏み込んだ、秋田における集成・積層技術を紹介
- ・来場者数： 372 名

② WOODコレクション

- ・会 場： 東京都江東区有明三丁目 11-1 東京ビッグサイト
- ・運営機関： 令和 8 年 2 月 12 日（木）～2 月 13 日（金）
- ・展示内容： 構造材、造作材、内装材、役物製品、建具材、家具、木工製品等、各種木材製品を配置し、魅力的な空間を作り上げ、秋田の森林・林業・木材産業の裾野の広さと奥深さを前面に打ち出して紹介
- ・来場者数 376 名（ノベルティ配布数）

（2）技術指導・移転事業

木材関連企業が抱えている木材製品の生産、加工、利用に関する技術的課題の解決をサポートするため、各種相談対応、現地指導、企業訪問などを行った。

1）相談対応

来訪、電話等により企業から寄せられる諸課題に木高研と連携しながら対応し、必要に応じて資料送付、関連情報の収集提供、データ恵与、事例紹介などを迅速的確に行った。

◎ 相談件数：14 件

① 内容別内訳 (件)

加工技術	生産技術	利用技術	情報提供ほか	計
4	－	－	10	14

② 業種別内訳 (件)

林業	木材加工	流通	建築設計	行政	試験研究	その他	計
－	7	1	－	1	3	2	14

2）現地指導

企業からの派遣要請に基づき、当該企業が抱えている技術的課題の解決に適任の指導者を当機構の技術コンサルタントの中から人選し、直接企業に赴いての現地指導を行った。

◎ 顧問指導：0 件

◎ 技術コンサルタント指導：1 社（加工技術についての現地指導）

3）企業訪問

木高研の研究成果の民間への移転可能性を探るとともに、企業ニーズの把握などを目的

とした企業訪問を実施した。

◎ 訪問企業数：72社（団体など含む）

社（延べ）

林業	製材	合板	集成材	フローリング	プレカット
12	20	9	4	1	-
チップ	家具木工	建具	流通市場	工務店	その他
3	1	2	10	-	10

（３） 啓発研修事業

新製品開発に意欲のある企業や、社員の技術研鑽・知識向上に取り組む企業などを支援するため、公開講演会を開催した。

１）公開講演会

木材高度加工研究所の研究内容や成果を業界関係者、行政、他研究機関などへ広く周知するため、能代市、能代木材産業連合会と連携して研究所講演会を開催した。

開催日	会場	参加者	講師	演題
R8.1.30	木高研 研修室	53名	木材高度加工研究所 教授 足立幸司氏	『秋田スギから生まれた超小型BEV 「あきたもくまる」発信』
			木材高度加工研究所 特任助教 元田多一氏	『木材はなぜ腐る？ “大きな循環”のカギを握る菌類』

２）技術研修会

県民や県内の事業者等に対して、木材の優先的な利用について意識醸成するとともに、建築において木材利用を提案できる人材の育成を図るため、セミナー等を開催した。

あきた木造建築塾開催（県受託事業）

開催日	会場	参加者	講師	演題・テーマ
R7.7.9	オンライン開催	18名	秋田県林業木材産業課 専門員 鎌田 真氏 木材高度加工研究所 所長 高田克彦氏	・建築講座概要説明 ・「木材利用と炭素循環」
R7.7.23	オンライン開催	11名	木材高度加工研究所 准教授 川井安生氏 木材高度加工研究所 教授 山内秀文氏	・「材料としての木材」 ・「木質材料」
R7.8.7	オンライン開催	15名	秋田県立大学 教授 板垣直行氏 (株)角 繁 課長 草薨和仁氏	・「木造建築の変化」 ・「木建築物の耐久性・耐候性」

R7. 8. 20	オンライン開催	24 名	ウッドストック技術士事務所 主 幹 原田浩司氏 (有) もるくす建築社 代表取締役 佐藤欣裕氏	・「木建築物の耐久性・耐候性」 ・「サステナブルな木造設計」
R7. 12. 24	秋田県 JA ビル	79 名	秋田市教育委員会 総務課 神坂正人氏	・学校建築に“木の力” ～市有林を活用した学校整備事業～

建築を学ぶ学生を対象にした設計コンペの開催（県受託事業）

開催日	会場	参加者	審査委員等	内 容
R7. 11. 13	秋田県 JA ビル	5 名	審査委員長 秋田公立美術大学 教授 小杉栄次郎氏 ほか委員 4 名	・木材利用提案コンクール応募作品の審査（応募作品数 12 点） 最優秀賞 1 点, 優秀賞 2 点, 特別賞 1 点
R7. 12. 24	秋田県 JA ビル	79 名	木材利用提案コンクール 表彰式 講評 秋田公立美術大学 教授 小杉栄次郎氏	・作品：表彰式会場に展示

木造・木質化の優れた建築物等について普及啓発を図る事業（県受託事業）

開催日	会場	参加者	審査委員等	内 容
R7. 11. 13	秋田県 JA ビル	5 名	審査委員長 秋田県立大学 教 授 板垣直行氏 ほか委員 4 名	・ウッドファーストあきた木造・木質化建築賞 の審査 木 造 A 部 門：最優秀賞 1 点 木 質 B 部 門：最優秀賞 1 点 木 質 化 部 門：最優秀賞 1 点 特別賞 2 点
R7. 12. 24	秋田県 JA ビル	79 名	ウッドファーストあきた 木造・木質化建築賞表彰 式 講評 秋田県立大学 教 授 板垣直行氏	・受賞作品集 1,000 部作成

収益目的事業	木材に関する調査・研究等を行う事業
--------	-------------------

企業などから発注される次のような木材に関する調査・研究事業等を行った。

- 1 企業からの依頼により、集成材の曲げ試験、椅子の強度試験、製材の含水率や熱伝導率などの物性試験、耐火試験のほか、音響透過損失試験など、製品の品質管理や新製品開発過程などで必要とする各種の試験を実施する。
- 2 大学などが発注する木材の調査・研究に関する業務を受託する。
- 3 自治体などからの依頼を受け、木製ダム・木柵・木橋等の木製構造物の劣化等の診断をする。

◎依頼件数：35件

分野	件数	主な試験内容
強度試験	20件	・集成材の曲げ試験 ・椅子の各種強度試験 ・直行集成板の各種試験 ほか
物性試験	6件	・製材の含水率試験 ・熱伝導率試験
耐火・燃焼試験	6件	・耐火試験
その他	3件	・音響透過損失試験 ・橋梁点検

貸借対照表

令和8年3月31日現在

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	18,014,165	20,592,888	△ 2,578,723
未収金	2,149,950	3,296,700	△ 1,146,750
前払金	35,970	193,050	△ 157,080
流動資産合計	20,200,085	24,082,638	△ 3,882,553
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
定期預金	20,000,000	20,000,000	0
投資有価証券	386,860,000	418,644,000	△ 31,784,000
基本財産合計	406,860,000	438,644,000	△ 31,784,000
(2) 特定資産			
定期預金	115,000,000	115,000,000	0
特定資産合計	115,000,000	115,000,000	0
(3) その他固定資産			
電話加入権	144,000	144,000	0
備品	2	314,775	△ 314,773
ソフトウェア	364,980	469,260	△ 104,280
その他固定資産合計	508,982	928,035	△ 419,053
固定資産合計	522,368,982	554,572,035	△ 32,203,053
資 産 合 計	542,569,067	578,654,673	△ 36,085,606
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	516,315	1,038,602	△ 522,287
預り金	183,111	183,337	△ 226
流動負債合計	699,426	1,221,939	△ 522,513
負 債 合 計	699,426	1,221,939	△ 522,513
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
寄付金	438,644,000	450,824,000	△ 12,180,000
基本財産評価損益	△ 31,784,000	△ 12,180,000	△ 19,604,000
指定正味財産合計	406,860,000	438,644,000	△ 31,784,000
(うち基本財産への充当額)	(406,860,000)	(438,644,000)	(△ 31,784,000)
2. 一般正味財産	135,009,641	138,788,734	△ 3,779,093
(うち基本財産への充当額)	(0)	(0)	(0)
正味財産合計	541,869,641	577,432,734	△ 35,563,093
負債及び正味財産合計	542,569,067	578,654,673	△ 36,085,606